

咲洲ウェルネスタウン計画 ver.1.1

～ 南港ポートタウンの未来に向けて ～（概要版）

1. はじめに

- ・南港ポートタウンは、大阪市が開発した、いわゆるニュータウンで、1977(昭和 52)年のまち開きから 40 年が経過し、緑豊かな住環境を有するまちに成長しています。
- ・一方、社会環境の変化とともに人口の減少、少子・高齢化の進展、住宅や施設の老朽化など、様々な問題が現れています。
- ・南港ポートタウンを今後も将来にわたって、多様な世代が集い、笑顔あふれる魅力あるまちにしておくために、2015(平成 27)年 4 月に「咲洲ウェルネスタウン計画 ver.1.0」を策定し、取り組みを進めてきました。
- ・これまでの取り組みの成果と課題を踏まえつつ、2018(平成 30)年度以降の具体的な取り組みの方向性を示すため、現行の計画を「咲洲ウェルネスタウン計画 ver.1.1」に改訂します。

2. 魅 力

- (1) 「圧倒的なみどり」や「豊かな自然環境」
- (2) 子育てしやすい「安全」で「安心」な環境
- (3) 南港ポートタウン内外に特色ある大学や企業などが存在



3. 課 題

(1) 急激な少子高齢化・人口減少の進展

- ・昭和 52 年のまちびらき以降、一斉に住宅が整備され、住民の入居が進みました。その一次世代の高齢化や世帯分離による若年層の地区外転出などにより、少子・高齢化の進展、人口の減少などが急速に進んでいます。
- ・今後さらに少子高齢化や人口減少が大きく進展することで、まちとしての地域コミュニティ活動や生活サービス機能の維持等が困難となる状況が懸念されます。

(2) まちの自動更新が期待できない

- ・南港ポートタウンの住宅はすべて共同住宅であり、土地は公的所有、あるいは共有です。
- ・個人所有や民間所有が多い他のまちであれば普通に行われるまちの柔軟な変化が期待できません。

(3) まちに関する情報発信が不十分

- ・豊かな緑、安全・安心な生活環境など魅力が多くあり、それらを活用した様々な魅力発信に取り組んでいましたが、まだ、魅力が地域外に十分に伝わっていません。

(4) 商業施設などの撤退傾向

- ・人口減少に伴い、南港ポートタウン内の商業施設の売り上げは減少しています。
- ・今後更に人口減少が進むと、商業施設の撤退や魅力低下など、新たな課題が発生する可能性も考えられます。

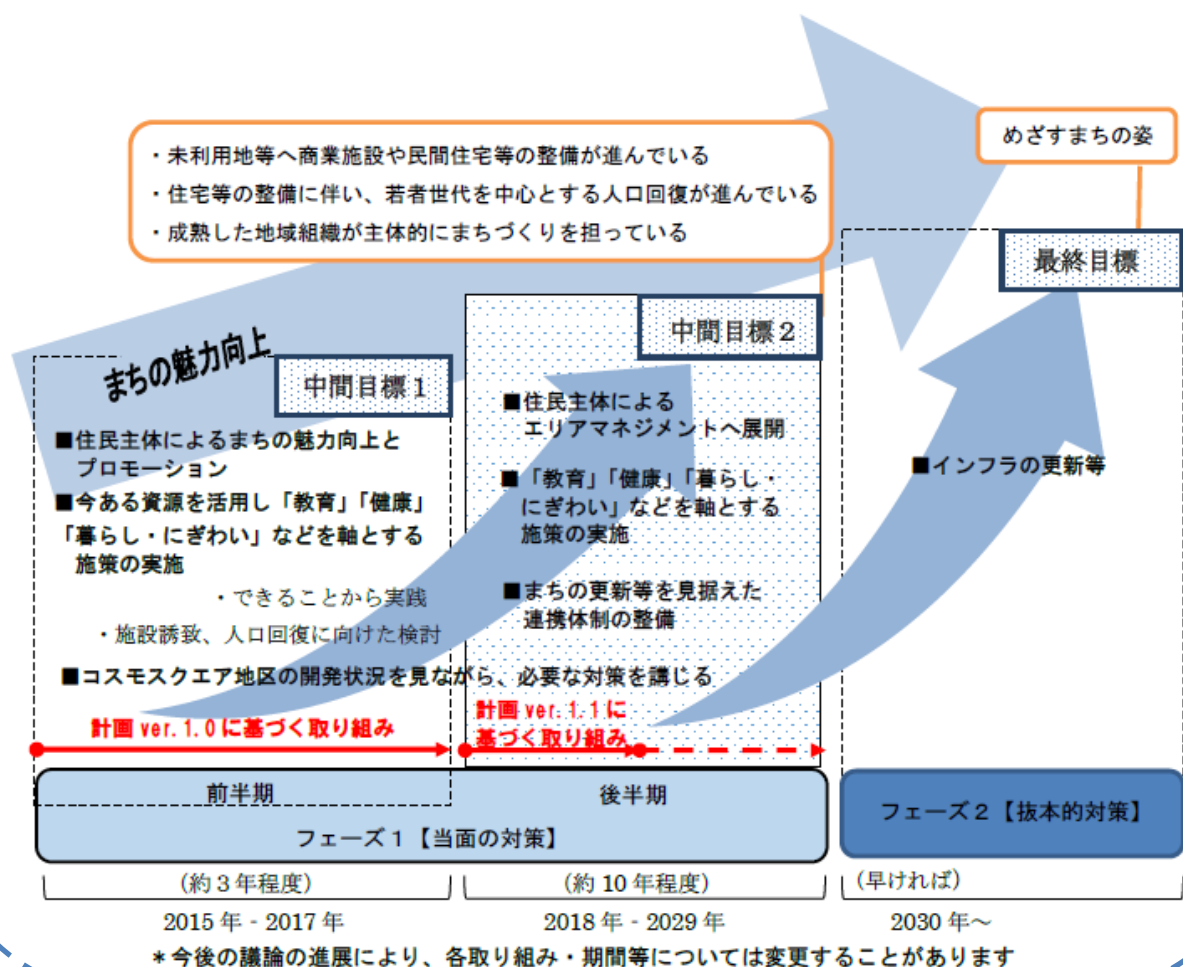
4. めざすまちの姿

咲洲ウェルネスタウン構想

誰もが心身ともに健康で、いきいきと心豊かに暮らすまち
子どもたちの夢を育むまち

- ・南港ポートタウンの良好な住環境を維持するとともに、現状の課題を解決するだけでなく、新たな魅力を掘り起こし、“若い世代が暮らしたいまち”をめざします。
- ・公園・緑地が非常に多い、ノーカーゾーンで車が非常に少ないなど、ジョギングなどのスポーツ・健康づくりに適した環境であるという特長を活かしたまちづくり（＝咲洲ウェルネスタウン構想の実現）をめざします。
- ・緑豊かな環境のもと、いきいきと学び、活動できる教育環境の形成と向上を図ることで、子どもたちの夢を育むまちをめざします。
- ・住民が地域の多様なコミュニティの中で楽しみながらいきいきと活動し、そうしたコミュニティがつながり活動の輪を広げ深めながら、ともに考え行動することによってまちづくりが進みます。
- ・地域でいきいきと活動し輝く住民自身が、まちの新たな魅力となります。
- ・多くの若い世代を新たな住民として迎え、コミュニティが循環してさらに活発に活動し、誰もが心豊かに暮らすまちをめざします。

具体的な取り組み（全体スケジュール）



5. 今後の取組み

(1) 基本的な考え方

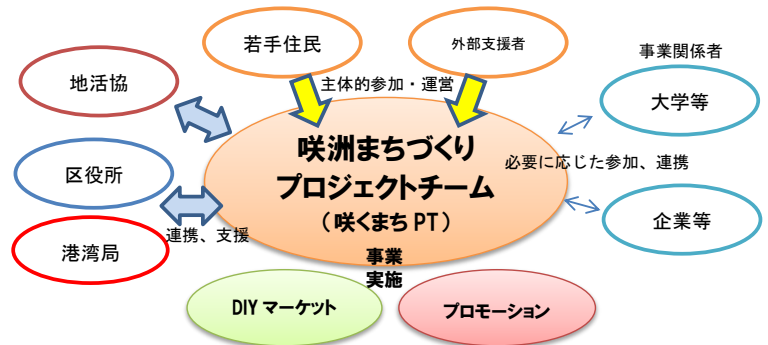
急速に進む少子高齢化・人口減少をはじめとするまちの課題解決に向け、南港ポートタウンを「咲洲ウェルネスタウン構想特区」として位置づけ、住民をはじめ大学・企業等とも連携し、引き続き市として特別な施策を講じていきます。

(「咲洲ウェルネスタウン構想特区」：2014年11月10日決定)



ア 地域住民を主体とした活動をさらに発展させ、住民自らがまちの変化を生み出す取り組みを促しつつ、それを支える持続的な仕組みを構築し、事業関係者とも連携しながら本格的なエリアマネジメントへと展開する

- ・地域住民を主体とした「咲洲まちづくりプロジェクトチーム（咲くまち PT）」を2015(平成27)年7月に立ち上げ、「ファミフェス」や「DIY マーケット」、ウェブサイト「ナンコウスタイル」など主体的・自立的に様々な活動を展開してきました。
- ・今後も、住民自らが楽しみながらいきいきと主体的に様々な活動を行っていきけるよう、パブリックスペースの継続的な活用の仕組みの構築などに取り組んでいきます。
- ・将来的には、咲くまちPTなど住民等を主体とした組織が南港ポートタウンのエリアマネジメントを担うまでに成長するための仕組みの構築等に向けて取り組みを進めていきます。



エリアマネジメント組織イメージ図

イ 「先進的教育」「健康的環境」「暮らしとにぎわいの再構築」を軸に、引き続き、市として特別な施策を講じる

- ・改訂前の計画において、住民をはじめ大学・企業とも連携した施策を講じてきました。
- ・様々な取り組みを進めてきた現在でも、急激な少子高齢化・人口減少の抑制には至っていない状況であり、引き続き南港ポートタウンを「咲洲ウェルネスタウン構想特区」として、住民をはじめ大学・企業とも連携し、市として特別な施策を講じていきます。

ウ 急激に進みつつある少子高齢化、人口減少の進展をはじめとする課題解決に向け、将来のまちの更新等を見据えた連携体制の整備を図る

- ・急激に進みつつある少子高齢化、人口減少の進展等に対応するためには、南港ポートタウンに関わる事業関係者、具体的には大阪市（住之江区役所、都市計画局、港湾局、都市整備局など）、大学、企業等の土地所有者、さらには周辺の関連主体などが、将来のまちの更新等を見据え官民連携のもと取り組んでいくことが必要となります。
- ・各事業関係者の役割分担を明らかにしつつ、行政側での連携体制とあわせて、企業等の事業関係者を含めた連携体制の整備を推進します。

（３）フェーズ１（後半期）の取り組み

ア 南港ポートタウンにおけるプロモーションの推進と地域住民を主体としたまちづくりから本格的なエリアマネジメントへの展開

- ・住民自らが楽しみながら情報を発信するプロモーションの推進を図るとともに、大学、行政、企業等も連携し、南港ポートタウンのプロモーションに取り組んでいきます。
- ・咲くまちPTなどが、将来的には南港ポートタウンのエリアマネジメントを担うまでに成長するための体制づくり・仕組みの構築等に向けた取り組みを進めていきます。

○ 実施する事業（予定）

- ・南港ポートタウンにおけるプロモーションの推進（様々な活動を通じた地域外への魅力発信、ウェブサイト「ナンコウスタイル」の充実、地域における新たな人材の発掘）
- ・主体的な取り組みをさらに進めるための体制づくり、仕組みの構築に向けた取り組み（「活動体」「協議体」の体制づくり・仕組みづくり） など

イ ３つの柱（「先進的教育」「健康的環境」「暮らし・にぎわいの再構築」）ごとの取り組み

- ・「教育・健康・暮らし、にぎわい」のこれまでの取り組みを引き続き推進することにより、まちとしての魅力を高め、まち全体のプロモーションを推進するとともに、空き施設等を活用した利便施設の誘致など、若い世代を迎え入れるための取り組みを実施していきます。



○ 実施する事業（予定）

- ・先進的教育（特色ある教育の実施、芸術・文化を通じた人材育成、健康・スポーツを通じた人材育成 など）
- ・健康的環境（大学・企業等と連携した取り組みの推進、健康・スポーツ体験の取り組みの推進）
- ・暮らしとにぎわいの再構築（緑地を活用したにぎわいづくり など） など



ウ 将来のまちの更新等を見据えた推進体制の整備 ～ 魅力を高めるまちの機能と空間づくり ～

- ・まちの魅力を高めていく方向性の検討や想定される変化に柔軟に対応できるまちづくりの連携体制を整備します。
- ・南港ポートタウンの魅力を感じていただける若い世代の転入を促進するため、未利用地や既存住宅ストックのリノベーションなど、南港ポートタウンの魅力を高めるまちの機能と空間づくりを検討する体制を整備します。

○ 実施する事業（予定）

- ・行政側での推進力と連携体制の整備（まちの活性化に向けて関係局を含む検討体制・連携体制の整備）
- ・事業関係者を含めた連携体制の整備（行政と事業関係者が参加し、まちの活性化に向けて本格的に検討する横断的な場の整備） など